

コミュニケーションを内在した共同体における創出

千頭和 直輝

近年、共同体における創出に対する関心が高まっている。共同研究や共同企画からワークショップやグループディスカッションに至るまで、関心の対象となる共同体の範囲は広い。本研究は、共同体における創出（以下、共同創出と言う）の例として「演劇活動」を取り上げ、共同創出に必要なプロセス・要件を発見することを目標とする。さらに、本研究で発見した必要なプロセス・要件と、他の共同創出におけるプロセス・要件とを比較することにより、より一般的に共同創出のメカニズムに関する知見を深めることを目的とする。

演劇活動において、演出家が役者に行う演技の指示を「演出」という。稽古場において、この「演出」に関する議論が演出家、役者、関係者の間で起こり、新しい「演出」が生まれることがある。このとき、「演出」が公演関係者たちの中で共同創出されたと定義し、演出が共同創出されるプロセスや、そのとき必要とされる要件について分析する。

分析の対象としたのは、2010年10月29日、30日、31日に、上野小劇場で上演された演劇作品「えほんのなか」の稽古中にみられた演出過程である。データは18日分の稽古の録音から文字記録として起こしたものをを用いた。これらのデータから、共同創出が行われたと思われる議論を計8つ抜き出し、分析を行った。

分析の手法として、まず「発話機能」を本研究に則した形に拡張した。発話機能とは、「コミュニケーションにおいて、発話によって話者から聴者に伝達された最終的な意味のうち、それが両者の対人関係上に果たした機能を抽出して、名称を与えたもの」であり、人々がコミュニケーションを行う際にやり取りされている意味内容に名称をつけたものである。

この「拡張した発話機能」を、共同創出が起こった議論の各発話に対して付与し、共同創出までに表れる「発話機能」のプロセスと、共同創出を導く要件の分析を行った。この分析の結果、本研究における共同創出のプロセスのパターンが4つ得られた。すなわち、「問題解決型共同創出」、「意見提供型共同創出」、「意見発見型共同創出」、「意見・問題複合型共同創出」である。また多数の要件が抽出でき、要件のタイプを共同創出に不可欠な要件と共同創出を促進させる要件の二つに区分できることを示した。

さらに、本研究で見つかったプロセスのパターンと要件を、他の共同創出のプロセス・要件と比較分析することにより、共同創出過程に共通に含まれるパターン、要件に関する考察を行った。今後、本研究のような、共同創出の実態の観察と分析に基づく研究と、それらの比較研究とを繰り返すことによって、共同創出のメカニズムに関する理論的理解に貢献することができると考えられる。

（指導教員 石井啓豊）